

境港市小中学校編成について（中間答申）

平成 28 年度、境港市教育委員会より諮問を受けたことについて、以下の通り中間答申として示すものとする。

1. 将来の児童生徒数減少に対応した小中学校の編成の方向について

- これからの境港市の小中学校の児童生徒数は、「境港市人口ビジョン」によれば、2060 年（平成 72 年）には、現在の約 40%まで減少して約 1100 人になると推測されており、市内の大半の学校は規模の小さな学校となる。文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」によれば、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望まれるとあり、学校の小規模化が進めば、それに伴う教育上の課題がこれまで以上に顕在化すると指摘されている。義務教育の機会均等や水準の維持・向上の観点で考えれば、境港市の地域の実情に応じた適切な学校教育の在り方や学校規模について主体的に検討し、これからの児童生徒にとってより良い教育環境はどうあるべきかについて議論を深めていく必要がある。
- 現在の境港市の小中学校の校舎は、全 10 校のうち 7 校が昭和 40 年から昭和 50 年の間に建設されており、今後老朽化に伴う維持管理が課題となってくる。「境港市公共施設整備計画」をもとに考えても、これから先、現在の 10 校をそのまま残しながら維持管理していくには大きなコストがかかるため、今後は校舎の改築や学校の統合等についても検討していく必要がある。
- 現在検討されている新しい学習指導要領は、小学校では平成 32 年度より、中学校では平成 33 年度より全面実施される予定である。これまでの「生きる力」を育むという理念をより推し進めるために、学びの在り方として、主体的・対話的で深い学びを目指す「アクティブラーニング」や、「社会に開かれた教育課程」といった学校マネジメントの重要性が示されている。これらの要素をより効果的に、より戦略的に行い、義務教育の水準を向上させることが期待される学校の教育環境について検討していく必要がある。
- 以上のことをもとに、境港市の将来的な小中学校の編成の在り方として、次のとおりとすることが適当と考える。
 - (1) 義務教育の水準を向上させることを目指し、将来的な児童生徒の減少と校舎の改築や統合を含めた維持管理等の課題を考慮すれば、小中一貫校を開設することが望ましい。また、小中一貫校の開設にあたっては、境港市の地域の実情を鑑み、小学校 7 校を現在の三つの中学校区ごとに統合し、現在の中学校の校地に小中一貫校を新設または増設するのが適切である。
 - (2) 三つの小中一貫校の開設にあたり、新学習指導要領に示された学習の効果を高めるため、義務教育 9 年間の教育目標を設定し、9 年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる「義務教育学校」について検討することが望ましい。

(3) 中学校校区で小中一貫校が開設されて、今までより校区が拡大されることに伴い、学校と地域との連携をさらに一歩進め、子どもや学校の抱える課題の解決や、未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、「社会に開かれた教育課程」が推進されるよう「コミュニティースクール（学校運営協議会制度）」を目指すことが望ましい。

2. 今後の学校の編成の方向に照らした誠道小学校の在り方について

- 誠道小学校は、余子小学校から分離し、昭和 58 年に開校した。開校時の児童数は 333 人であったが、年々児童数が減少し、平成 28 年度は 57 名となっている。また、今年度は 2 年生と 3 年生は複式学級になるなど、学習環境が大きく変化している。今後数年間は全校児童は約 60 名前後で推移すると予測されるが、それ以後に児童数が増加することは望めず、さらに減少していく可能性もある。
- 現在、誠道小学校では、地域や近隣施設との交流を行うなど工夫しながら、児童一人ひとりを大切にされた小規模校ならではの教育を行っている。しかし、学級の児童数が少ないという問題は、児童の活動や学習の場面に影響を及ぼし、多様な活動や学習の機会を十分に保障できていない状況を生み出している。平成 32 年度より施行される新学習指導要領では「アクティブラーニング」が重視され、学習の方法の見直しや改善が求められる。新しい学習指導要領の示す教育の効果を十分に引き出すためには、ある一定の児童数が確保されていることが望ましい。
- これからしばらくの間、この小規模の状態が続くという条件下では、教育の機会均等とその水準の維持向上を保障していくことは難しいと考えられるため、これからの児童にとってより良い教育環境を提供していくことが望まれる。併せて、現在在籍している児童のためにも適切な教育環境を早期に検討することが求められる。
- 前述したように、境港市の小中学校の編成の方向については、現在の中学校区を中心にした小中一貫校が望ましいという方向性を示した。これを踏まえつつ、誠道小学校の現在の教育的課題や学校関係者の意見、さらに、他の地域での学校統合等の経緯なども参考にしながら、第二中学校区の小中一貫校ができるまで、誠道小学校について今後どのようにするのがよいか審議を行った。具体的には、「このままの形で存続」、「他の小学校と統合する」、「校区を拡大する」という三つの案について審議したが、それぞれに多様な意見が出され、統一した見解を示すには至らなかった。したがって、審議会としては次のことについて確認をした。
 - (1) 誠道小学校の今後の在り方については、これまでの審議の内容を踏まえつつ、新たな情報や知見をもとにしながら、来年度に審議を再開し、残された課題について継続して審議を行う。
 - (2) この中間答申の内容を踏まえながら、来年度の審議会における新たな審議内容を加えて調整し、改めて最終答申として示すものとする。

平成 28 年 9 月 30 日

境港市校区審議会